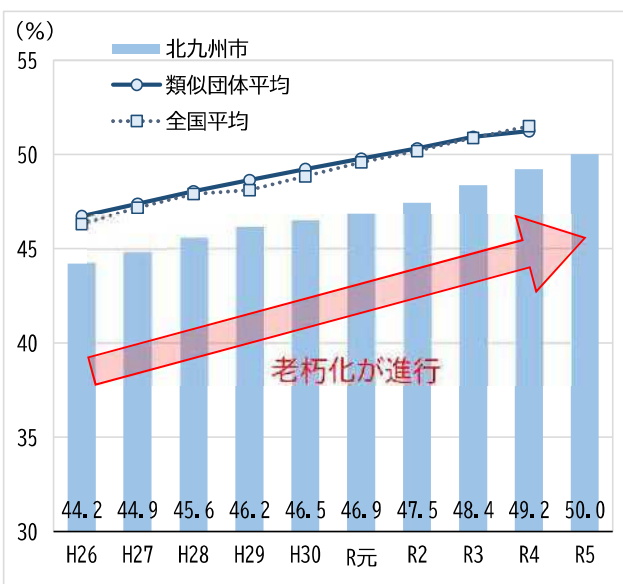


4 施設の状況と現在の取組

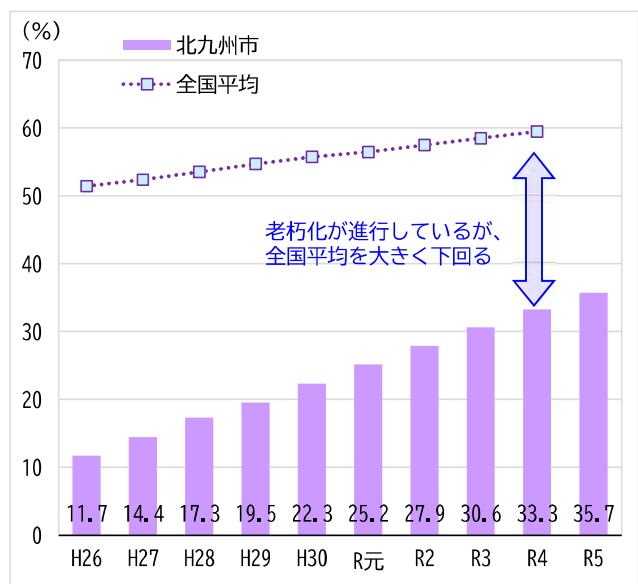
19

4 施設の状況と現在の取組 (1)有形固定資産減価償却率 ①水道・水道用水供給事業

【水道事業】



【水道用水供給事業】



水道事業については類似団体・全国平均を下回っているが、H26年度からR5年度で**5.8ポイント上昇し、老朽化が進んでいる**。

水道用水供給事業もH26年度からR5年度で増加しているが、H23年度に供用を開始し、比較的資産も新しいことから、全国平均を大きく下回っている。

※総務省 経営比較分析より

※水道事業の類似団体：東京都と政令指定都市（相模原市を除く）

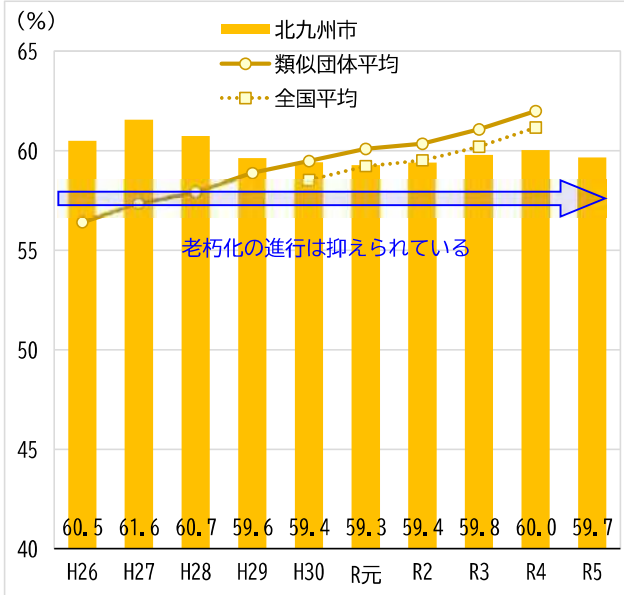
※有形固定資産のうち、償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを表す指標で、施設の老朽化の度合いを示している。

$$\frac{\text{有形固定資産減価償却累計額}}{\text{有形固定資産のうち償却対象資産帳簿原価}} \times 100$$

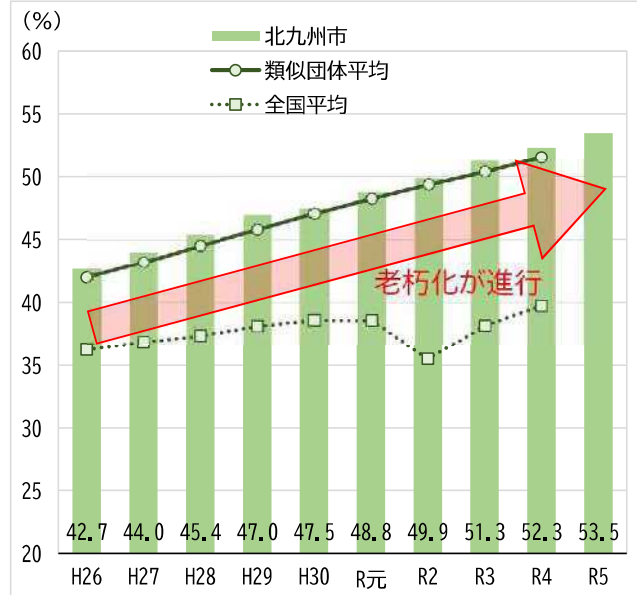
20

4 施設の状況と現在の取組 (1)有形固定資産減価償却率 ②工業用水道・下水道事業

【工業用水道事業】



【下水道事業】



工業用水道事業については、ほぼ横ばいで、老朽化の進行は抑えられている。
下水道事業については、類似団体平均とほぼ等しいが、全国平均を上回っており、
H26年度からR5年度では**10.8ポイント上昇し、老朽化が進んでいる。**

※総務省 経営比較分析より

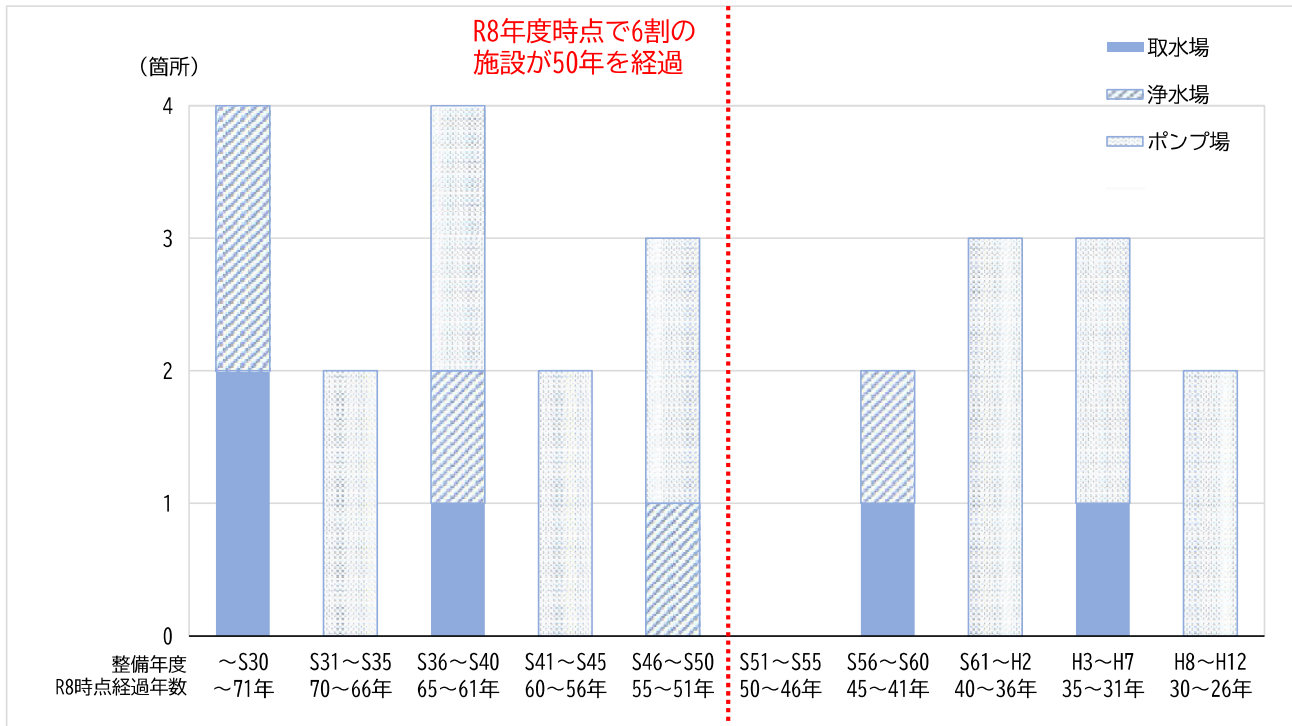
※工業用水道事業の類似団体：現在配水能力規模が200,000m³/日以上の実業体（28団体）

※下水道事業の類似団体：東京都と政令指定都市

※下水道事業については、北九州市は公共下水道と特定環境保全公共下水道の合算値
(類似団体平均と全国平均は公共下水道のみの値)

21

4 施設の状況と現在の取組 (2)整備年度と経過年数 ①水道事業 i 浄水場等



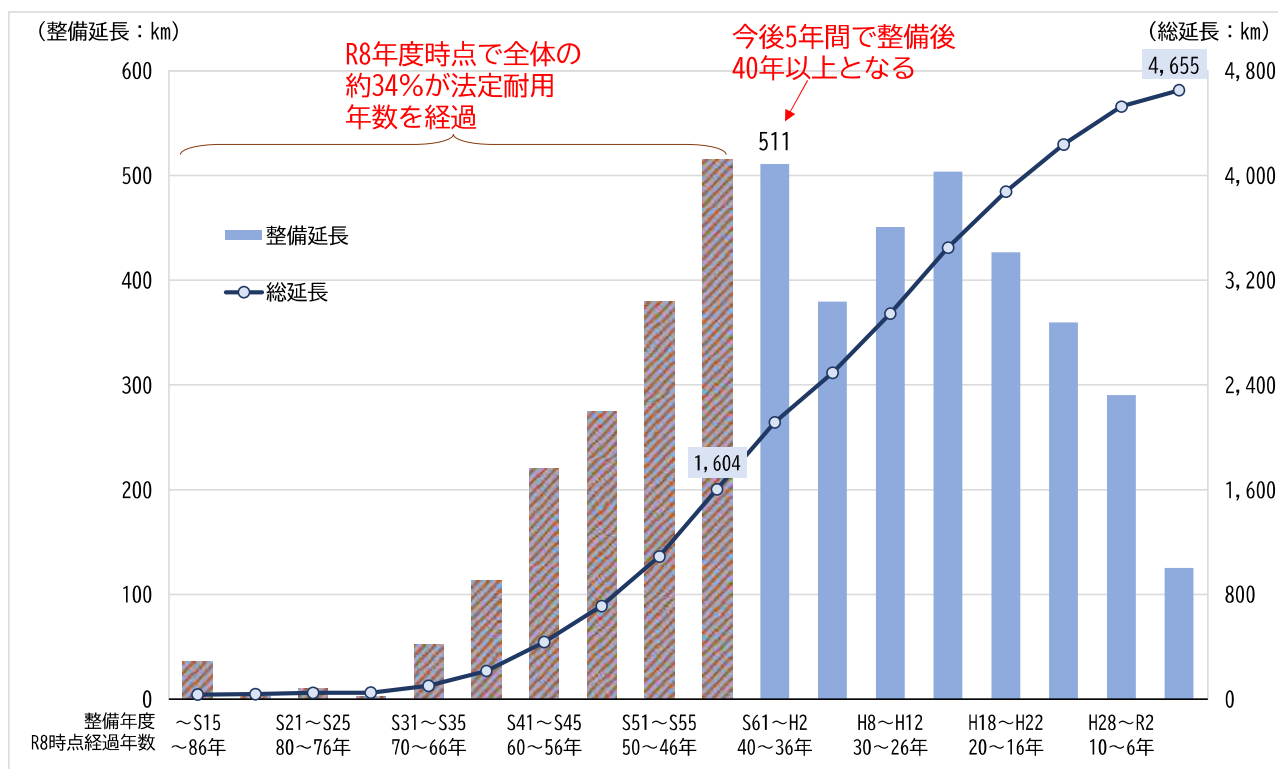
6割の施設が整備後50年以上経過している。

3つの基幹浄水場のうち、一番古い穴生浄水場（S36年）をはじめ、一番新しい本城浄水場（S58年）でも設置から43年を経過している。

※基幹浄水場：穴生浄水場・井手浦浄水場・本城浄水場。

22

4 施設の状況と現在の取組 (2)整備年度と経過年数 ①水道事業 ii 管路

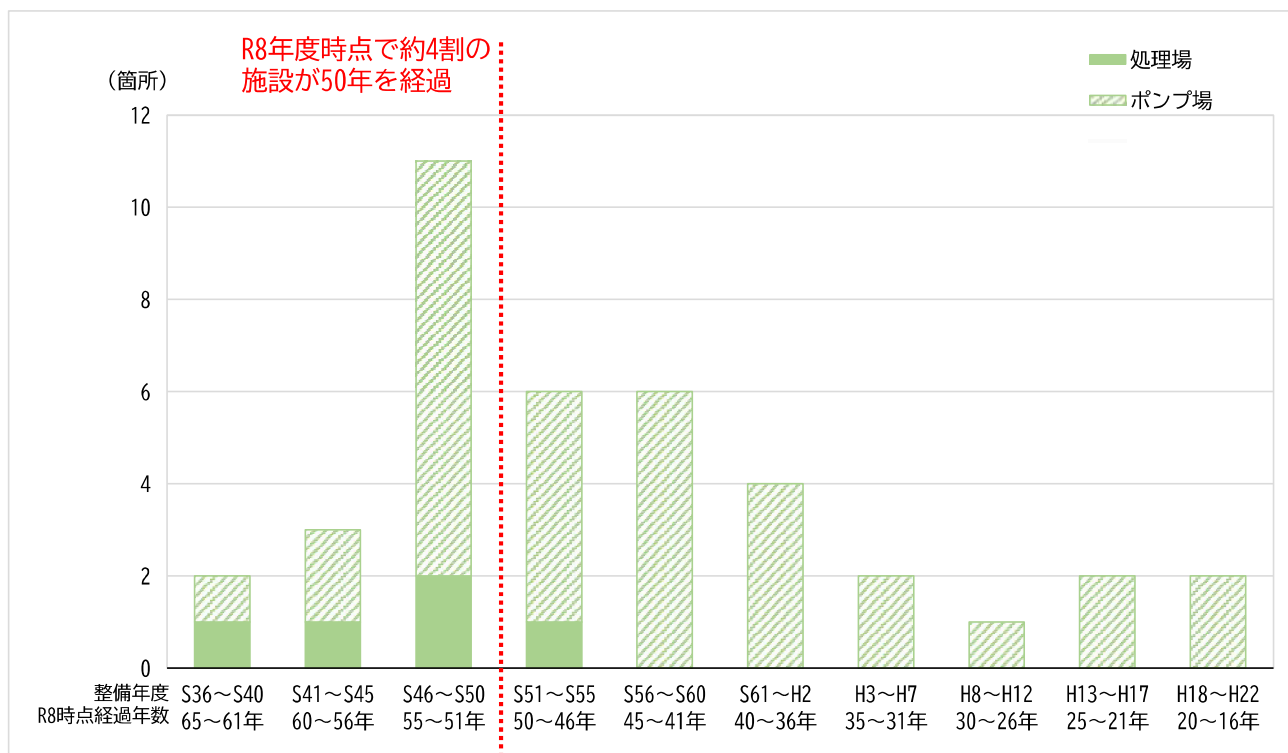


R7年度末時点で、水道管路の約34%が法定耐用年数(40年)を経過。
次期中期経営計画期間においても、更に500km以上の管路が法定耐用年数を迎える。

※法定耐用年数は会計上の基準であり、実際の更新基準年数とは異なります。(以降の資料も同様)

23

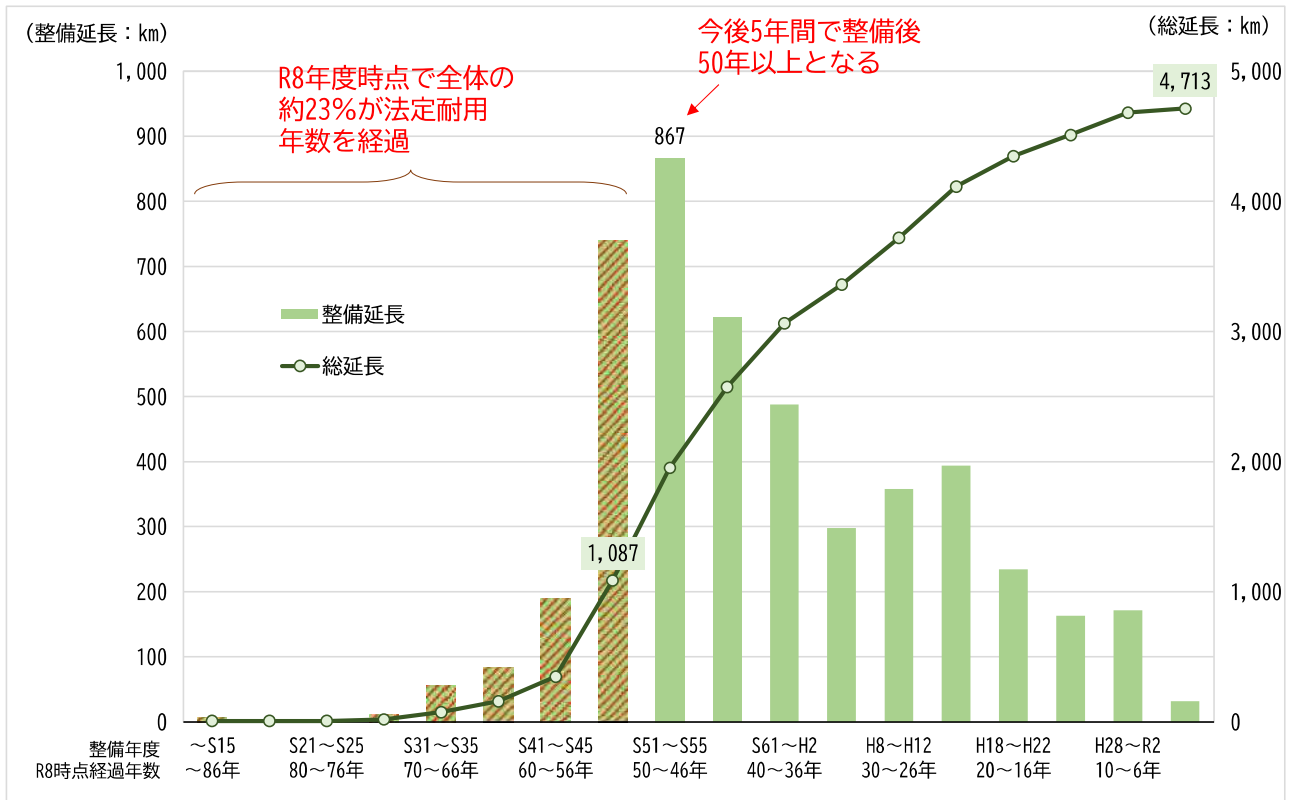
4 施設の状況と現在の取組 (2)整備年度と経過年数 ②下水道事業 i 浄化センター等



約4割の施設が整備後50年以上経過している。
5つの浄化センターのうち、一番古い皇后崎浄化センター（S38年）をはじめ、一番新しい曽根浄化センター（S54年）でも共用開始から47年が経過している。

24

4 施設の状況と現在の取組 (2)整備年度と経過年数 ②下水道事業 ii 下水道管渠



R7年度末時点で、下水道管渠の約23%が法定耐用年数(50年)を経過。
次期中期経営計画期間においても、更に800km以上の管渠が法定耐用年数を迎える。

25

4 施設の状況と現在の取組 (3)施設の老朽化の状況等



S38年以前に整備した水道管（配水管）



S53年に整備した水道管（配水管）



水道管の漏水事故



下水道管渠破損による道路陥没



硫化水素により腐食した
下水道管渠（圧送管）

施設の老朽化によって、サービスの提供に支障が生じることに加え、
道路陥没や法面崩壊などの二次被害が発生する可能性もある。

26